

事業所名	グループホーム いるかの家
日付	2009/3/27
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員 介護福祉士 社会福祉主事 認知症ケア専門士 社会福祉主事 介護福祉士 介護支援専門員
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※	

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か ・「皆に優しく、共に楽しく、私たち『いるかの家』の職員一同は、皆様が共に安らぎ、楽しく生活できる環境作りを目指します。私たちは皆様に優しく、礼儀正しく接し、機敏に着実に奉仕させていただきます。」という理念を毎日唱和し、理念の実現と具体化に取り組んでいます。 ・入居者自らが何をしたいかという思いを持ち、主体性をもって生活できる環境を整え、自立した生活が送れるように支援しています。 ・もうひとりの家族として、心に寄り添い、ともに楽しく過ごし、やすらぎや家庭的な温かさのあるグループホームをめざします。 ・理念をもとにそれぞれのスタッフが「心にゆとりをもち笑顔のあるホームにしていきたい」「入居者さんのそばで一緒に過ごす時間を積極的につくる」等目標を決めて支援している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違え等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か ・居室には使い慣れた物や馴染みの品など持ち込み、落ち着いてその人らしく生活できるような環境づくりに取り組んでいます。 ・入居者同士の相性を考慮して、2つある食堂を活用しています。また随所に椅子やソファを配置し、くつろぎの空間を設けています。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など） ・和風の懐かしい邸宅を模した木造平屋建てでホームで、1棟に2つの玄関、リビング、食堂があり、そのため一般的な家庭と同じような人数で食事や団欒ができるように工夫されています。スタッフが入居者と一緒に買物や散歩に出かけたり、皆で協力して食事の準備等をして、もう一人の家族として共に暮らすという雰囲気がかがわれました。 ・理念をもとにスタッフそれぞれが半年毎にケアの目標をきめて、入居者一人ひとりの自己決定や人格を尊重した支援を心がけている。 ・運営母体が医療法人なので、いつでも医療連携ができ、入居者や家族は安心して生活できる、またスタッフも安心して緊急時の対応ができています。併設施設の機能を充分生かした連携も出来ていて、法人の研修等にも積極的に参加し、入居者の生活の質の向上に努めている。 ・「いるか新聞」を毎月発行し、入居者の日頃の様子や出来事等を知らせることで、ホームと家族との信頼関係に繋がっている。 ・「職員がこまめに気をつけてくれて、清潔な服装にしてもらっています」「新聞のコメントから日常の様子や状況がよくわかる」「面会時よく状態を説明してくれる」等家族の声がある。
特に改善の余地があると思われる点 特にありませんが、運営推進会議に毎回町内会および地域包括支援センターのセンター長の参加があるようです。今後もますます地域密着型サービスに広がりができるものと期待します。

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か ・過去の経験、役割や楽しみごとが生活の中で活かされるように、教えてもらう場面をつくり、自信の回復につなげています。 ・居室に入る前には声かけをし、了解を得ています。トイレでは必ずノックをしています。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 ・毎月開催する業務カンファレンスで入居者との関わりについて話し合い、より良いケアに努めています。伝達講習会や外部研修に積極的に参加し、自らを高めていく努力をしています。 ・事故など問題発生時には、原因や対策を話し合い、ヒヤリハット用紙や申し送りノートで全職員に申し送り、再発防止に取り組んでいます。		